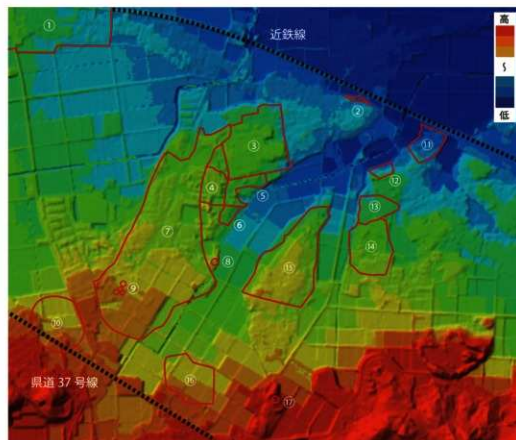


		明和町できごと	小社遺跡と周辺のできごと
34000年前	旧石器	後期	南部の丘陵地でナイフ形石器や尖頭器を使った狩猟が行われる
13000年前		草創期	狩猟の場であり、キャンプ地のような狩猟の一時的な拠点があった。ナイフ形石器や石刃、石器を作る際にでる剥片が出土している。 北野遺跡へばら地区では多くの石器類が出土
7000年前		早期	遺構は認められず、生活の拠点ではなかったと考えられる。しかし石籬が出土していることから狩猟の場であったことがわかる
5000年前		前期	砂堆上の西浦遺跡に縄文人の活動が見られる
4000年前		中期	西出遺跡で人面土版を用いた祭祀が行われる
3000年前	縄文時代	後期	コドノB遺跡で縄文人が生活
2300年前		晩期	
		前期	金剛坂遺跡で環壕集落が造られ、稲作が行われる
		中期	
		後期	金剛坂遺跡などで方形周溝墓が造られる
1700年前	弥生時代	前期	
1600年前		中期	高塚1号墳が造られる
1500年前		後期	南部丘陵で群集墳が造られる 坂本1号墳が造られる
1400年前	古墳時代	前期	673 斎王制度が始まる（大来皇女が派遣される）
1300年前		奈良時代	水池土器製作遺跡などで土師器が生産される
1200年前		平安時代	方格地割が整備され、斎宮が最も栄える
1000年前			鎌倉大溝が掘られる
800年前	中世	鎌倉時代	1297 安養寺が創建される
600年前		南北朝時代	1336 斎王制度が終わる
500年前		室町時代	有馬郷で御器長を中心に土師器を生産する
		戦国時代	
400年前		安土桃山時代	伊勢街道が整備される
	近世	江戸時代	

明和町文化財解説シート

新発見 小社遺跡と明和町の歴史

令和6年12月9日から令和7年4月25日にわたり上野地内で宅地開発に伴う発掘調査を実施しました。この場所はこれまで遺跡として登録されていませんでしたが、今回の調査により古墳時代から近世にかけての遺構や、それよりさらに古い時代の遺物も多く発見されました。土地の字名から「小社（こやしろ）遺跡」として新たな遺跡の発見となりました。小社遺跡の調査によって新たな古墳群の発見、弥生時代の生活の痕跡、古代における土師器生産の痕跡など明和町内の歴史を語る上で重要といえる発見が多くありました。



〈小社遺跡の立地と地形〉

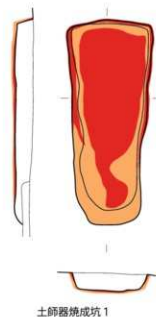
小社遺跡がある場所は明和町南部にある玉城丘陵から続く舌状の台地上に位置しています。明野原台地と呼ばれる高位段丘面が各所に分布しており、台地上では水害も少なく安定した土地であるため遺跡が集中しています。今の土地利用を見ても台地上に住宅地、台地下の谷状の場所では水田等を行うといった地形に合わせた利用が続いていることがわかります。

小社遺跡がある台地上には安養寺跡、北野遺跡などの遺跡、谷を越えた東側の台地上には本郷遺跡さらに東の台地上では国史跡水池土器製作遺跡、黒土遺跡が分布しています。

- ①国史跡斎宮跡 ②鐘突遺跡 ③安養寺跡 ④古堀遺跡 ⑤仲畑遺跡 ⑥小社遺跡
⑦北野遺跡 ⑧西ノ野古墳 ⑨順禮野古墳群 ⑩堀田遺跡 ⑪二ツ橋遺跡 ⑫水池B遺跡
⑬国史跡水池土器製作遺跡 ⑭黒土遺跡 ⑮本郷遺跡 ⑯外山遺跡 ⑰養村大塚古墳

〈小社遺跡周辺の遺跡 一北野遺跡と仲畑遺跡の調査一〉

小社遺跡の西側には北野遺跡があります。北野遺跡では過去の発掘調査で主に飛鳥時代～奈良時代頃の掘立柱建物や竪穴建物、土師器焼成坑が多く見つかっています。このことから北野遺跡は斎宮や神宮といった場所で使用される土師器の生産地であることがわかっています。令和5年度には開発事業に伴う試験調査が明和町により実施しました。この調査でも飛鳥時代～奈良時代の竪穴建物3棟、土師器焼成坑6基などが確認され、台地上西側でも土師器生産が行われていたことが確認できました。小社遺跡の北に隣接する仲畑遺跡では平成24年度に道路開発に伴う調査が行われました。弥生時代の遺物のほか、奈良時代の土師器焼成坑1基が確認できました。



〈土師器焼成坑〉

古代に使用された土器である土師器を焼いた窯「土師器焼成坑」が2基発見されました。1基は半分ほど壊れていましたが、もう一基は全体のプランが確認できました。

一般的な二等辺三角形を呈しており、奥壁、側壁は直線的な形をしています。

長軸：約4.4m 短軸：約2.2m 深さ：約0.48m

被熱
強い被熱

1m (1/50)

土師器焼成坑 1



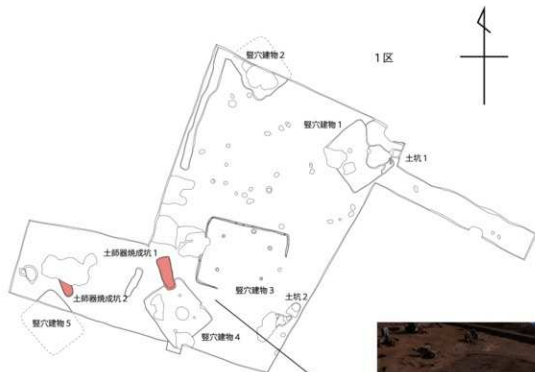
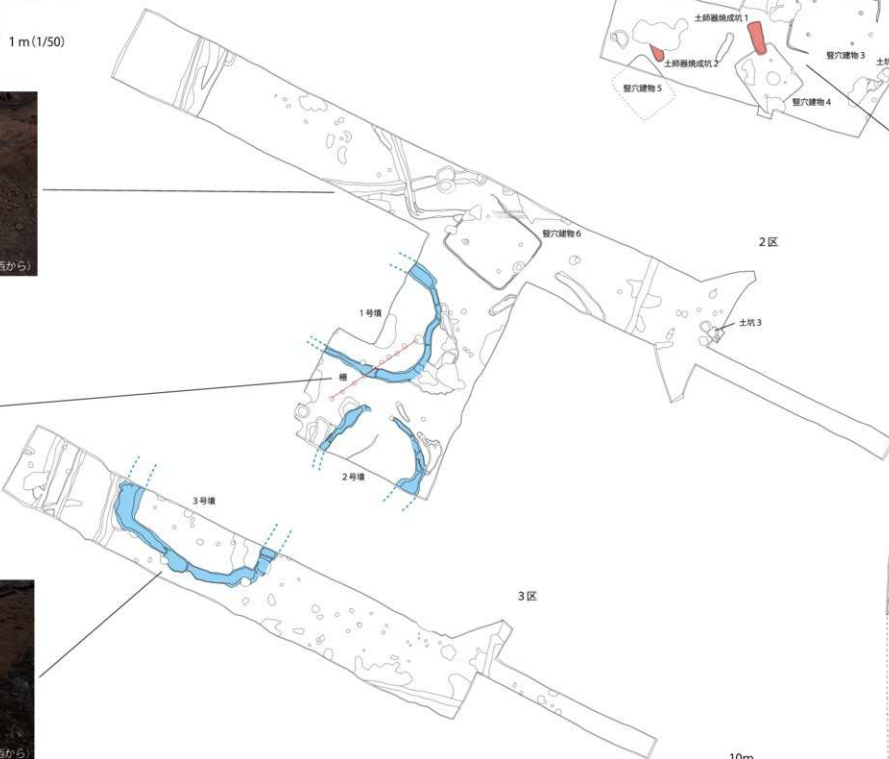
西 (西から)



南 (南から)



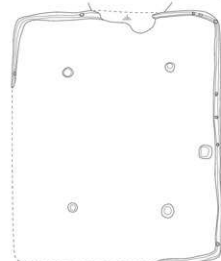
3号墳 (西から)



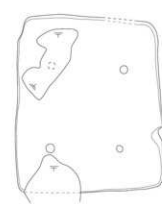
西から

〈二つの時代の竪穴建物〉

小社遺跡の調査では6棟の竪穴建物が確認され、このうち2棟は弥生時代後期、4棟は奈良時代のものでした。時代の違いによって、建物の大きさや構造にはいくつかの違いが見られます。



弥生時代



奈良時代

5m
(1/100)

竪穴建物 1	奈良時代
竪穴建物 2	奈良時代
竪穴建物 3	弥生時代
竪穴建物 4	奈良時代
竪穴建物 5	奈良時代
竪穴建物 6	弥生時代
土師器焼成坑 1	奈良時代
土師器焼成坑 2	奈良時代
土坑 1	奈良時代
土坑 2	奈良時代
土坑 3	平安時代
1号墳	古墳時代
2号墳	古墳時代
3号墳	古墳時代